



「安心感」という ブランド価値をもって、 変革へ挑戦

代表取締役会長
金田 準

はじめに、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、感染症に罹患されたみなさま、および関係者のみなさまに謹んでお見舞い申し上げますとともに、医療従事者をはじめ感染症拡大防止にご尽力いただいている方々に心から感謝申し上げます。

新たな価値創造を目指し、 「三愛オブリ株式会社」へ

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、社会的・経済的に人々に大きな影響を及ぼしました。これまで盤石と信じてきたものでさえ思わぬきっかけで脆くも崩れる、このコロナ禍で誰もが痛感したことでしょう。しかし、社会は変革を繰り返し、その時代に即したシステムを構築していきます。そして、そこにはイノベーションの創出が必要不可欠です。これからは、創造性とそれを実現する力を備えた企業・人材が社会を牽引していくと考えています。総合的なソリューションを提供する当社グループは、柔軟な対応力で新しい課題の解決に取り組み、社会との共有価値を創造していきます。

新たな事業領域へ挑戦する姿勢を示すため、2022年4月より、商号を「三愛石油株式会社」から「三愛オブリ株式会社」に変更します。同時に、関係会社7社においても商号を変更し、経営理念である三愛精神を軸に新たなスタートを切ります。社会構造や人々の価値観は常に変化するものですが、私は経営理念を追求することで社会との共有価値が生まれるものと信じています。そして、当社グループの経営理念である三愛精神はどの時代にも通じる普遍的な経営への信念を表しています。社会変革が進む時代において、私たちは経営理念という不変の価値観をもって未来へ挑戦し続けます。

企業成長の礎は人材育成

企業が成長するための礎を築くのは人材です。当社グループは、社員一人ひとりが心身ともに健康でいきいきと自らの力を発揮するための基盤を整えています。

健康経営では、現状分析から課題を明確にし、各種施策に取り組むべく健康経営戦略マップを策定しました。社員の健康リテラシーの向上のために、オンラインセミナーやeラーニングを活用した教育を積極的に実施しています。今年三愛石油(株)の「健康経営優良法人2021」継続認定に加えて、中小規模法人部門にて関係会社2社が初めて認定されました。従業員の身体的な幸福度を高めることで個人の能力が十分に発揮され、生産性の向上に結びつきます。さらに、会社へのエンゲージメントが高まるよう有給休暇の取得促進やダイバーシティ研修の開催など、取り組みを進めていきます。

挑戦的な組織風土の醸成

これまで当社グループは、お客さまに真摯に寄り添い、時代の流れに即した商品やサービスを提供することで信頼を獲得してきました。その実直な組織風土は当社グループの強みであり、ステークホルダーのみなさまへ提供する安心感につながっているものと考えています。そのうえで、これからの時代に必要となるのは実直かつ挑戦的な姿勢です。本年度よりスタートした中期経営計画では、事業戦略の実効性向上に向けた人事制度の再構築、人材活用基盤の整備と専門人材の確保を取り組み方針に掲げています。当社グループは、安心感というブランド価値を高めるとともに、これからの時代に必要とされる企業グループとなるため、あらゆる分野への挑戦を加速していきます。



新たな成長軌道の スタートラインに立つ

代表取締役社長
塚原 由紀夫

新中期経営計画 ~変貌する未来への挑戦 Challenge2030~ ガスタート

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の停滞が続き、先行きについてはワクチン接種の効果期待される一方で、変異株の感染拡大が懸念されるなど依然として不透明な状況となっています。

当社グループを取り巻く事業環境は、少子高齢化や自動車の燃費向上などによる石油製品の需要減少に加えて、2050年カーボンニュートラルへの潮流が加速するなど大きな転換期を迎えています。エネルギー業界に身を置く当社グループは、事業環境の変化と課題に向き合いながらサステナビリティの視点を経営戦略に組み込むことで社会から求め続けられる企業グループを目指していきます。

当社グループは、急激に変化する環境に機敏に対応し新たな価値創造へ挑戦するため、2030年を基準に「低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオの進化」を新たなビジョンとし、中期経営計画を策定しました。本年度よりスタートした「変貌する未来への挑戦 Challenge2030」では、成長のための経営基盤の再構築期と位置付け、基幹事業の効率化と事業間の連携強化を図るとともに、成長分野への投資や人材の確保と育成により一層注力していきます。

サステナブルな社会を創造する

今や世界共通のキーワードである「サステナビリティ」は、社会と企業の成長にとって不可分な関係にあります。国内においては、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指すことを宣言し各企業が気候変動への対応を加速しています。当社グループは2030年を見据え確実な低炭素・循環型社会への対応に取り組んでいきます。

2020年度、航空関連事業においてはCO₂排出量の少ないSAF^{※1}の受入・給油を行い航空会社の取り組みに協力したほか、車両の燃料にバイオディーゼルを使用し環境配慮を意識した運営を推進しています。今後も、電気自動車の導入拡大や水素供給設備の研究・投資、太陽光発電設備を事務

所内に設置するなど視座を高めて取り組んでいきます。

ガス関連事業では、ガス事業部でLPWA^{※2}の導入を開始しました。今後、配送効率化・業務効率化を図ることにより、保安の高度化および配送車の燃料削減による環境負荷低減が期待できます。また、天然ガス部では、重油などほかの燃料から天然ガスへの燃料転換や省エネ機器の導入推進に努めました。今後も当社の強みであるエネルギーソリューションの提案力を最大限に生かしていきます。

石油関連事業では、現在モビリティの進化に合わせた業態開発を進めており、その中でサステナビリティの観点から時代に求められる価値提供の実現を目指しています。

新しくスタートした中期経営計画のもと、サステナブルな社会の実現に向け各事業で取り組みを進めていきます。気候変動への対応とともに、石油・ガス・航空燃料など社会インフラを担う企業の責務として、石油製品出荷基地や航空機給油施設の安全確保と運営に万全を期し、エネルギーの安定供給に努めることで人々の生活と産業を支えるパートナーとして成長し続けます。

ステークホルダーのみなさまへ

当社グループは、経営理念である三愛精神「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」とコーポレートブランドである「Obbli」を核として、人や社会に報いる役割を果たしてきました。今後もさらに成長し続ける企業グループの実現に向け、2022年4月に三愛石油株式会社は「三愛オブリ株式会社」へと商号を変更するとともに、新たな事業領域へ挑戦していきます。今後とも、みなさまの変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。本報告書につきましても、ぜひ忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

※1 SAF: Sustainable Aviation Fuel. 原材料の生産・収集から燃焼までの過程でCO₂の排出量が少ない持続可能な供給源から製造されるジェット燃料。

※2 LPWA: Low Power Wide Area. 長距離の通信を低消費電力で実現できる無線通信技術の総称。